

別記様式（第7条関係）

## 記者会見連絡票

所属部署（さくら市ミュージアム－荒井寛方記念館－）

タイトル
「第72回 春の院展 栃木展」
概要（発表内容を簡単に記入してください。）
<p>現代の日本画界をリードする団体「日本美術院」。日本美術院の開催する「院展」は春と秋（再興院展）に開催され、多くの人に親しまれています。このたびの「第72回春の院展」は今年3月に東京日本橋三越本店でスタートしたものが全国13箇所の開催の後、当市で開催となります。</p> <p>展覧会は日本美術院の経営なども関わる同人33名に加え、受賞作品、さらには本県にゆかりの作家作品等、90点という豪華な展示となっています。3度目にして最大数の展示の予定です。昨年好評だった栃木県での春の院展を引き続き、今年もぜひご堪能いただければ幸いです。</p> <p>会期：平成29年10月14日（土）～11月19日（日）</p>
内容（発表内容のポイントを記入してください。別紙資料でも可能。）
<p>◇春の院展について</p> <p>「春の院展」は日本美術院に所属している作家が春に行う展覧会です。戦後間もなく焼け野原の東京三越の会場で開催されたことが始まりです。当時、敗戦の日本でGHQが横山大観に人心が荒廃しているのを文化的な催しをやってほしいと要望があったことから開催したことが始まりでした。それから72年、日本の復興とともに歩んできた春の院展ですが、今年は824点という応募があり、その中から318点が東京の展示会場に並びました。さくら市では、更に厳選を行い、90点という見ごたえのある展示となっています。</p> <p>その中で、栃木県の関連作家は6名です。</p> <p>荒井孝（特待、宇都宮在住）、岸野香（招待、日光市出身）、窪井裕美（院友、さくら市出身）、高岡正子（市貝町在住）、中村ひろみ（院友、日光市在住）、野辺ひろみ（院友、足利市出身）</p> <p>※窪井裕美氏に関してはさくら市出身で、小学校の頃に見たさくら市ミュージアムでの荒井寛方の作品やその他の日本画に興味を持って画家になろうと思ったということです。現在東京藝術大学で助手として、また日本画家として活躍されています。</p>
<p>◇会期中のイベントについて</p> <p>展覧会初日には、開幕式（10月14日午後2時から）及びギャラリートークとサイン会を開催します。</p>

☆トーク・サイン会

日本美術院理事長の田淵俊夫氏も特別に来館します。

日本美術院同人・那波多目功一氏、宮廻正明、宮北千織氏

(サイン会は図録お買い上げの方 100 名様限定です)

☆会期中のギャラリートーク

10月29日(日)午後2時～ 文星芸術大学特任教授 荒井孝氏

11月4日(土)午後2時～ 日本美術院院友・さくら市出身 窪井裕美氏

トーク参加には観覧料が必要。

【共 催】 (株)下野新聞社

【協 力】 氏家ロータリークラブ/さくら市建設産業協議会

【観 覧 料】 一般 600 円 (500 円)、高校・大学生 400 円 (300 円)、小中学生、200 (100) 円

※ ( ) 内は 20 名以上の団体料金 ※さくら市民は半額、さくら市内小・中学生は無料。

※障がい者手帳をお持ちの方(同伴の介護者)

【会期中の休館日】 毎週月曜日(祝日は開館)、第3火曜日

本件に関する報道機関からのお問い合わせ先(所属、担当者名、電話番号)

さくら市ミュージアム－荒井寛方記念館－

TEL 028-682-7123

※ 1 案件ごと 1 枚作成してください。

# 春の院展鑑賞ガイド

栃木展

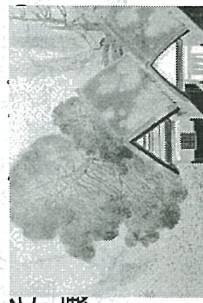
現在開催中の「第72回春の院展」は日本美術院が主催運営している日本画の公募展覧会です。  
 「春の院展」の他にこの団体によって行われている公募展覧会に「再興日本美術院展覧会（院展）」があります。  
 ここでは日本美術院について、「春の院展」と「院展」の違い、院内の序列について説明します。

## ◎日本美術院とは…

美術界の指導者、岡倉天心おかぐらてんしんが明治31（1898）年春に創立した研究団体です。

「東洋美術の正しい伝統を基礎として維持し、新時代の新美術を開発、樹立すべきこと」を目的に、天心てんしんの他に橋本雅邦はしもとみやのくに、横山大観よこやまたいかん、下村観山しもむらかみさん、菱田春草しやうそう等を中心幹部として活動を開始しました。その後、明治39（1906）年には研究所を東京都谷中から茨城県五浦に移し研鑽に没頭していき

ます。その最中、大正2（1913）年9月に天心は逝去してしまいましたが、翌年の大正3年には天心の精神を引き継いだ大観を中心、日本美術院が再興されます。この頃に荒井寛方あらいかんぼう（当時36歳）も日本美術院に院友として参加し、再興第1回院展に「暮れゆく秋」を出品します。



「暮れゆく秋」 荒井寛方作  
 大正3（1914）年  
 再興第1回院展出品

画家たちが日本美術院にも参加していましたが、その際がりでさくら市ミュージアムでも春の院展を開催して

荒井寛方

## ◎「院展」と「春の院展」

日本美術院が主催運営している公募展覧会は「再興日本美術院展覧会（院展）」と「春の院展」の2つがあります。



<p>大正2年岡倉天心逝去の翌年、大正3年9月に横山大観が日本美術院を再興して10月に「日本美術院再興記念展覧会」を東京都美術館で開催します。                  これが現在の「院展」の第1回にあたります。</p>	<p>昭和19・20年と院展を開催することが出来なかったため、昭和20年11月に日本橋三越で「日本美術院小品展覧会」を開催します。これがこの時期の春にやっていた試作展覧会と一緒になり戦後「小品展」として続きます。その後「春季展」と改称し、昭和45年に再度改称して「春の院展」となります。</p>
<p>毎年9月頃、東京都美術館から始まり翌年の6月頃まで各地を巡回します。秋から始まるので通称「秋の院展」とも呼ばれます。</p>	<p>毎年4月頃、三越日本橋本店から始まり11月頃まで各地を巡回します。</p>
<p>来年2月に再興第102回院展が東武宇都宮百貨店で開催しますね。</p>	<p>4月から全国を巡り、さくら市ミュージアムに来る頃には「春」ではなく「秋」になってしまいます。</p>
<p>内装共225cm×180cm以内                  縦横自由                  春の院展よりも大きいです。</p>	<p>・縦型（外装共）                  縦150cm以内×横70cm以内                  ・自由型（外装共）                  縦106cm以内×横106cm以内                  試作品展として始まり勉強会としての役割があるので小さめです。</p>
<p>・内閣総理大臣賞                  ・文部科学大臣賞                  ・受賞日本美術院賞（大観賞）                  ・院展で日本美術院賞（大観賞）、春の院展で日本美術院春季展覧賞の受賞した人は「無鑑査」となります。</p>	<p>・日本美術院春季展覧賞（郁夫賞）                  ・日本美術院春季展覧賞                  ・外務大臣賞</p>

賞した人は「無鑑査」となります。

院展で無鑑査になると次回の春の院展と院展で、春の院展で無鑑査になると同年の院展で、出品した時に相応しくないと判断されない限り入選となります。つまり無鑑査とは一次審査をパスできるシード権のようなものです。

## ◎日本美術院の作家区分

院展・春の院展で入選を果たし日本美術院に属する作家となると、その入選や入賞の回数で区分されます。

**【研究会員】** 521名  
院展と春の院展の入選者で、本人の申請を受けて同人会で推挙されます。

**【院友】** 624名  
研究会員であることを前提に院展に3回入選で推挙されます。

**【特待】** 135名  
院展に20回入選、あるいは奨励賞4回受賞、または日本美術院賞1回を受賞で推挙されます。

**【招待】** 4名  
院展で奨励賞15回受賞、または日本美術院賞2回受賞で推挙されます。

※院展、春の院展ともに無鑑査の適用あり。

**【同人】** 34名  
招待作家の中から、人格・芸術を特に重視し、同人全員による推薦投票で新しい同人を決めます。

※人数は平成29年4月現在

### 同人のお仕事！

同人になると日本美術院の経営にも係り、事業計画や業務体制や運用の改善について参考意見を提出したりします。また、展覧会や研究会の開催、公募作品の審査、賞の決定、同人の推挙、研究事業の運営について協力することなども同人の仕事となっています。

## 春の院展栃木展のみどころ

### 色に注目！

春の院展に展示されている作品はすべて

日本画です。きれいな色彩で描かれています。作品の表面をよく見てください。ゴッゴツ、ザラザラ、キラキラと感ずるでしょう。その正体は日本画で使う画材「岩絵具」です。岩いわといいくくららいいななので、岩石を砕いて粉状にしたものに、ノリの役目をする「膠」をまぜて自分で絵具を作ります。

また、貝殻を砕いて白い絵具にした「胡粉」や、「金箔」、「金泥」など様々な材料が使用されています。

### 数に注目！

第72回春の院展の出品数は応募点数824点ありました。厳しい審査の結果、入選は318点です。なお、同人の作品33点は審査されません。しかし、審査がないことは決して楽なことではないといえます。審査以上のプレッシャーを感じながら精神、技術の高みをめざして同人の先生方は毎年出品されています。

さくら市ミュージアムでは318点のうち90点を展示します。その中で、栃木県の関連作家は6名です。

荒井孝(特待、宇都宮在住)、岸野香(招待、日光市出身)、窪井裕美(院友、さくら市出身)、高岡正子(市貝町在住)、中村ひろみ(院友、日光市在住)、野辺ひろみ(院友、足利市出身)※五十音順、敬称略



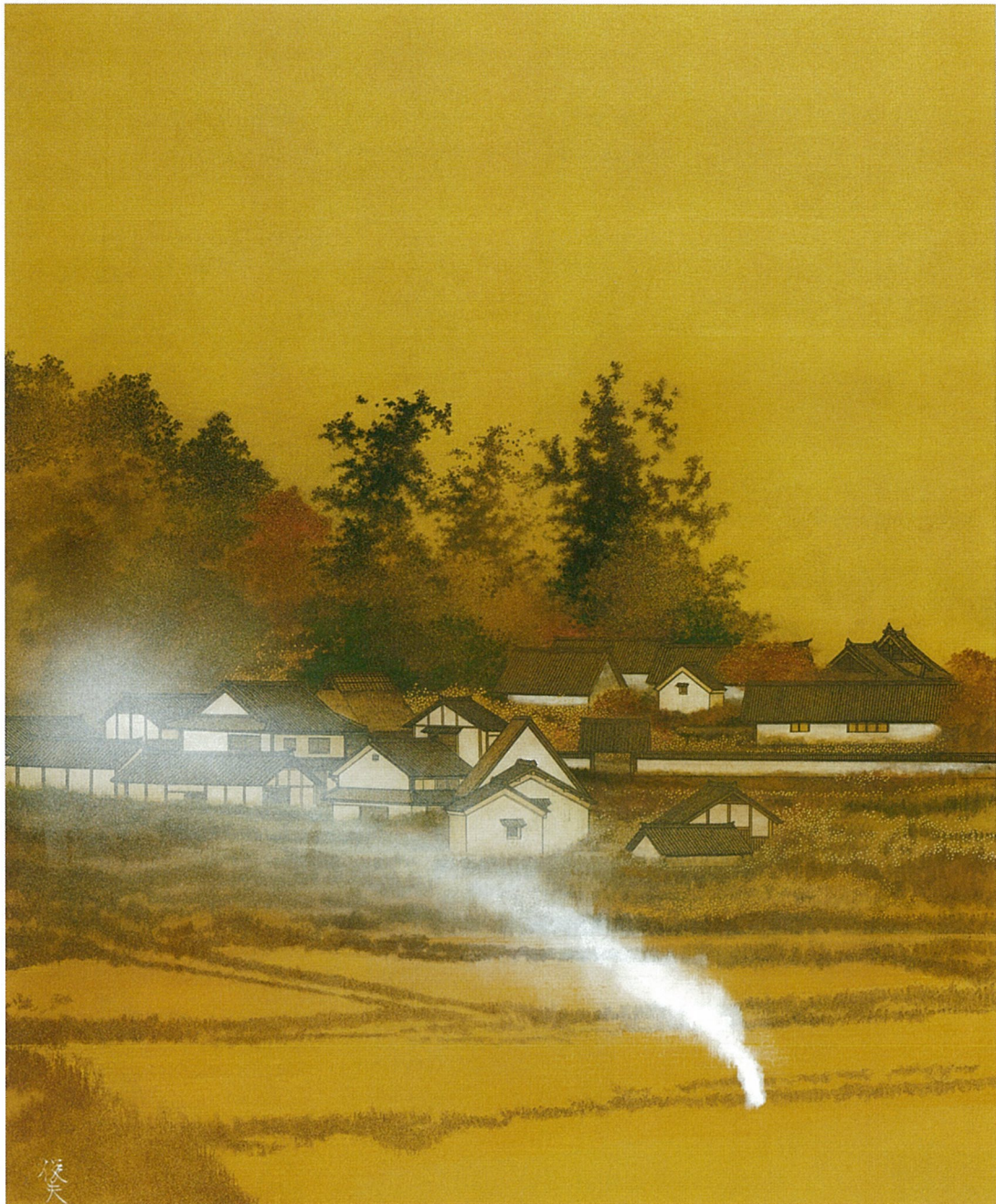
## 第12回 春の院展 栃木展

会期：10月14日(土)～11月19日(日)

参考：「日本美術院」HP: nihonbijutsuin.or.jp/

「第71回春の院展全作品集」 日本美術院 さくら市ミュージアム 荒井寛方記念館

TEL028-682-7123 FAX028-682-7854



明日香心象 好日 田淵俊夫

第72回

# 春の院展

題字 安田毅彦

春の院展 栃木展

平成 29 年 10 月 14 日(土)～11 月 19 日(日)

午前9時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)

主催 さくら市ミュージアム -荒井寛方記念館- / 公益財団法人日本美術院  
共催 下野新聞社  
協力 氏家ロータリークラブ / さくら市建設産業協議会  
休館日 月曜日、第3火曜日  
観覧料 一般 600(500)円、高・大生 400(300)円、小・中学生 200(100)円

☞ ( )内は20名以上の団体料金 / ☞ さくら市民は半額、さくら市内小・中学生は無料。  
☞ 障がい者手帳をお持ちの方とその介護者は半額。※割り引きの併用はできません。

さくら市ミュージアム -荒井寛方記念館-

〒329-1311 栃木県さくら市氏家1297 電話028-682-7123 FAX028-682-7854

URL <http://www.city.tochigi-sakura.lg.jp/site/sakura-museum/>

繊細にして大胆そして優美。



水面の春 那波多目功一



時空の粒子 宮廻正明

伝統と革新をモットーに現代の日本画界をリードする「日本美術院」。その設立は、明治31(1898)年と長い歴史があります。当市出身の荒井寛方(1878-1945)も院展同人としてその名を刻みました。春と秋に行われる大規模な展覧会は院展開幕を待ちわびるファンで賑わいます。その「春の院展」がさくら市で開催されることになり、今年で3度目となりました。本年はさらに展示作品数を増やし、珠玉の同人作品に加え、受賞作品さらには本県にゆかりの作家作品等、90点という豪華な展示となっております。皆さまの心に響く作品との出会いが必ずあるはずです。繊細で美しい作品の数々をご覧ください。



かりね 宮北千織



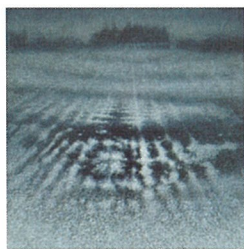
綾 岸野香



戯花 荒井孝



Nuit 窪井裕美



夢の跡 高岡正子



夕暮れ 高田裕子



うすらび 中村ひろみ



旅に出る夢 野邊ひろみ

栃木県ゆかりの作家 (在住・出身)

開幕記念式典(申し込み不要)

日時：平成29年10月14日(土)  
午後1時30分～2時  
会場：さくら市ミュージアム

ギャラリートーク&サイン会  
田淵俊夫氏、那波多目功一氏、  
宮北千織氏

日時：平成29年10月14日(土)  
午後2時00分～  
会場：展覧会場にて  
費用：観覧料が必要です

申し込みは不要です。ただし、サイン会はギャラリートーク(約30分間)の後、院展図録をお買い上げの方、先着100名様に限りさせていただきます。  
※都合により、イベントの内容が変更になる場合があります。予めご了承ください。

ギャラリートーク

日時：平成29年10月29日(日)  
午後2時～3時 日本美術院特待 荒井孝氏  
平成29年11月4日(土)  
午後2時～3時 日本美術院院友 窪井裕美氏  
会場：展覧会場にて  
費用：観覧料が必要です

宮北千織先生に学ぶ絵画教室  
「ステキな落ち葉を描こう」  
(小学校1年生以上～大人)

日時：平成29年11月18日(土) 午後1時～3時  
会場：ミュージアム内体験学習室  
定員：20名(低学年は保護者同伴で) 参加費：無料  
申し込み：往復はがきの往信裏面に「絵画教室参加希望」と書き、氏名・年齢(学年)・郵便番号・住所・電話番号を書いてください。また返信表面に郵便番号・住所・氏名を書いてください。後日、持参するものなどをご連絡いたします。なお、定員を超えた場合は抽選となります。  
締切日：10月20日(金)さくら市ミュージアム必着です。



さくら市ミュージアム - 荒井寛方記念館 - お問い合わせ TEL028-682-7123

再興第102回院展のお知らせ 平成30年2/8(木)～18日  
会場：東武宇都宮百貨店 宇都宮店 割引100円 再興第102回院展 このチラシを  
主催：公益財団法人日本美術院/野新聞社 宇都宮院展に限り ご持参下さい